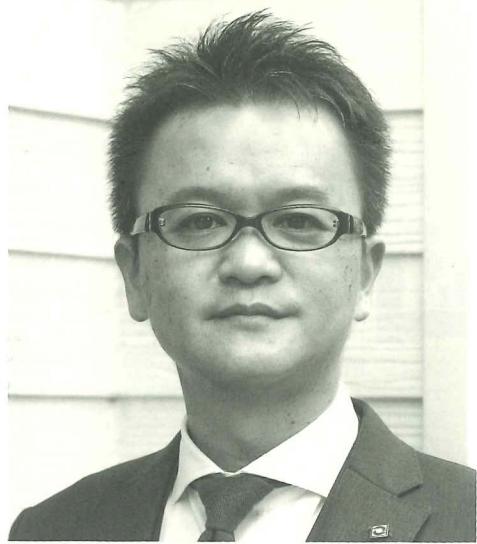


# インタビュー

(株)ごんきや  
代表取締役社長

佐藤 知樹 氏



さとう・ともき 1975年生まれ。宮城県仙台市出身。東海大学文学部卒業後、2000年4月(株)ごんきやに入社。04年10月同社専務取締役、15年7月1日代表取締役社長就任。趣味は、釣りと料理。

## お葬式が残り続ける仕掛けづくりを

創業2006年の(株)ごんきや(塩釜市、佐藤知樹代表取締役社長)。

新型コロナウイルス感染症で葬儀を取り巻く環境が激変する中、2021年4月に新店舗を仙台市内にオープンさせた他、山形市へも進出した。佐藤社長に老舗企業としての取り組みを聞いた。

——新型コロナの影響もあり、葬儀を取り巻く環境の変化についてどうのように捉えていますか。

佐藤 従来の葬儀の在り方が激変しました。新型コロナの影響もあり、

大勢の人が集まつて故人を見送る会館葬が避けられるようになり、少人数向けの家族葬が中心になりました。また、飲食を伴う通夜振る舞いなども行われなくなりました。この流れは止まらないと思います。家族葬の良さとは、故人に對して遺族が別れを告げ、感謝を伝えるという、お葬式の「本質」を感じていただけの点だと思いますので、われわれ葬儀業者もこの変化に対応していく必要があります。ごんきやでは、2017年9月に「家族葬邸宅【due】®(デュエ)仙台荒井」(若林区)をオープンさせ、故人とご家族がしっかりとお別れができる、プレミアム家族葬というものを目指し、将来を見据えて早くから取り組んでまい

——今後の店舗展開は。  
佐藤 2021年夏リニューアルオープン予定のイオンモール新利府北館(利府町)に、新店舗を出店予定です。既にイオンモール石巻(石巻市)では「お仮壇のごんきや」

りました。今まさに、この家族葬が求められていると感じています。  
——4月18日(日)に、4館目となる「家族葬邸宅【due】®仙台南光台」(泉区)がオープンしました。  
佐藤 南光台の地域の皆さんにお世話になつておかげさまで38年になります。このたび、ごんきや南光台支店を改築し、「家族葬邸宅【due】®仙台南光台」としてオープンしました。住所は、泉区南光台7丁目4-22です。南光台は住宅団地としての歴史もあり、家族葬ニーズが高い地域ですので、最大30人までご会葬可能で、自宅のようゆつたりとお過ごしいただける、くつろぎを追求した寝室やバスルーム、控室などを完備した貸し切りの邸宅型式場をご用意させていただきました。また、お客様のご希望に合わせたプランもお選びいただけます。併せて、お仮壇のごんきや南光台支店は一旦休店し、6月中旬に近接するセレモニア南光台椿会館1階にリニューアルオープン予定です。

——今後の展望や抱負は。  
佐藤 ごんきやとして、常に次の時代を見据えて対応していく必要があると考えています。世の中が求めある方向に少しでも先回りをし、本来あるべきお葬式の意義をご理解いただき、お葬式自体が残り続けていくための仕掛けづくりに取り組んでいきたいです。これが、創業2006年の企業として果たすべき役割だと考えています。ごんきやは、これまでお葬式を本業とし続けてきました。今後もお葬式を本業とし続けていきたいと思います。そして、これからも、地域でいちばん「ありがとうございます」といただける企業を目指します。



牛たん焼  
きをした  
お店

味の牛たん



と「ギャラリーメモリア」を営業しております。従来のロードサイド型の店舗に加え、今後は人が集まる商業施設への出店も進めていきます。  
——隣接する山形県に進出したそ

うですね。  
佐藤 このたび、山形の墓石会社をM&A(合併・買収)させていただき、山形市城西町に2021年3月、新店舗をオープンさせていただきました。墓石専門店として、グループ内で商品とサービスを内製化できるメリットを生かし、シナジー効果を発揮していきたいと考えています。

——今後の展望や抱負は。  
佐藤 ごんきやとして、常に次の時代を見据えて対応していく必要があると考えています。世の中が求めある方向に少しでも先回りをし、本来あるべきお葬式の意義をご理解いただき、お葬式自体が残り続けていくための仕掛けづくりに取り組んでいきたいです。これが、創業2006年の企業として果たすべき役割だと考